



◎波涛図 (32面)

旧本堂前面の三室に描かれていた「波涛図」は、三羽の鶴とわずかな岩石を除き大部分は連続と続くダイナミックな波のうねり、波が重なりあい交錯しつつ万里の大海原を描写しています。ボリュームのある波の中に吸いこまれるような圧倒的な迫力を表現しており、又翻朝の中の岩石もリアルに描かれ、ゆるぎない安定感を観る人の心に与えます。激動の中の静止とでもいうべきでしょうか。鶴も荒波を意識することなく、逆らうことなく休息しています。荒波・岩石・白鶴の図は、人生図とも云えるでしょう。

◎山水図 (13面)

旧本堂上間の床間と襖に「山水図」が描かれていました。応挙は、若年時代に視機械(のぞきからくり)に用いられた「眼鏡絵」を描いていますが、そこで会得した透視遠近法は、後年の応挙の作品に大きな影響を与えました。当寺の「山水図」にも近景から中景、さらに遠景へと拡がる構図の中に、透視遠近法を吸収した跡をうかがうことができます。また、余白をたくみに利用し、画面の空間性をみごとに生かしています。

応挙は、1733(享保18)年5月1日、丹波国穴太村(現・亀岡市曾我部町穴太)の圓山藤左衛門の次男・岩次郎として誕生、7歳の頃から菩提寺金剛寺の玉堂和尚のもとで小僧生活を送りました。絵に対する関心と才能は非常に高く、和尚からも絵師の道を勧められていましたが、和尚の没後間もない14歳の頃、京都に出て丁稚奉公をしながら本格的に絵の勉強を始めました。 応挙は、既成概念に囚われない斬新な発想で、従来にはなかった写生や遠近法を取り入れ、写実に徹することで物の本質に迫る絵を描こうとしました。こうして、当時全盛期であった狩野派を凌ぐ圓山四条派と呼ばれる写実主義の一派を誕生させ、その画風は皇室、寺院、武士、町人まで幅広い人々に親しまれ、当時「都中の絵が全て応挙となった」とまで言われました。

1788(天明8)年応挙55歳のとき京都で大火が起り、生まれ故郷の穴太に疎開、両親の追善供養と小僧時代の感謝を含め、金剛寺本堂の全ての襖、床の間に水墨画を描き寄進しました。「波涛図」(32面)「山水図」(13面)「群仙図」(12面)、その全てが現在、国の重要文化財に指定されています。

明治37年、当時の国宝に指定後、修復、掛け軸に改装、東京国立博物館(東博)に寄託。美術評論家鈴木進は「(波涛図は)毎年盛夏の頃、年中行事の如く陳列される」(國華第56編)と記し、雄大に展示されている様子は夏目漱石の小説「行人」にも登場します。

東博寄託の「波涛図」「山水図」は、明治の修復後120年が経過、傷みが酷くなったことから京都国立博物館内の文化財保存修理所で、令和5年から9年がかりで、令和の大修復を行なう事になりました。

修復には、約1億7千万円という膨大な費用が必要で、小さな寺だけではとても負担できず、国や住友財団から多くの助成を受けることになりましたが、それでもまだ不足しています。つきましては、「ふるさと納税」を活用し、皆様からのご寄付をお願いすることとなりました。こうした趣旨をご理解いただき、応挙の膨大で貴重な大作を後世に残すため、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

07 大阪		払込取扱票 公				払込料金 加入者負担	
口座記号番号						金額	
010802						千 百 十 万 千 百 十 円	
960403						備考	
加入者名		亀岡市会計管理者					
ご依頼人		京都府亀岡市ふるさと納税					
ご依頼人		ふるさと亀岡の歴史文化遺産を守る支援寄付 金剛寺円山応挙障壁画修復事業					
ご依頼人		〒・住所 _____					
ご依頼人		氏名(フリカナ) _____					
ご依頼人		電話番号 _____					
ご依頼人		指定先の代表者に対して住所、氏名、連絡先及び寄付金額を通知する事の可否 (可・否) _____					
ご依頼人		日		附		印	
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号大第46243号)							
これより下部には何も記入しないでください。							

  

振替払込請求書兼受領証 公							
口座記号番号						払込料金 加入者負担	
010802						千 百 十 万 千 百 十 円	
960403						備考	
加入者名		亀岡市会計管理者					
金額		千 百 十 万 千 百 十 円					
ご依頼人		おとところ (郵便番号 - ) _____					
ご依頼人		おなまえ _____ 様					
ご依頼人		【この払込は、ふるさと納税です。】					
備考		日		附		印	
この受領証は、大切に保管してください。							